

住みよいたけし

2024年8月16日発行

事務所 武石地域総合センター内

TEL:0268-85-2511

<https://www.s-takeshi.jp>

印刷 中澤印刷株式会社



武石観光センターで そば打ち教室開催

武石観光センターでは、9月初めまでそば打ち体験教室が開かれています。7月、8月はほぼ毎週開催で1回6組(6鉢)が体験できますが、人気があり参加枠がすぐに埋まってしまうとのことです。

講師は観光センターで手打ちそばを打っている川合かほるさんと大井正男さん。武石産の地粉を使った二八そばで受講料は1鉢2200円。6月9日(日)のこの日は、市内各地から来訪があり、遠い人は上塩尻からとのことでした。出来上がったそばは持ち帰ることも、またその場で茹でてもらい食べることもできます。

そばが大好きな鳥屋の村沢夏盛ちゃん(小学4年生)も両親と弟(1年生)の4人で参加、他の教室へも行くなどしてこの日が3回目の教室とのこ

とで、「難しい水回しやこねる手つきも上手」と講師に褒められていました。

お知らせ

美ヶ原高原で眺望を楽しみながら 太極拳はいかが!

日時 9月8日(日) 8:30～14:00
場所 美ヶ原高原台上
対象 どなたでも(先着25名)

申込・問い合わせ

住みよい武石をつくる会
TEL 85-2511(平日9:00～16:00)

熊沢峠登山道の整備 ふれあい交流部会

5月25日(土) つくる会ふれあい交流部会は、部会員5名で荒れた熊沢峠登山道の整備を行いました。チェーンソーや鉋、根切鋤などを使い、倒木を整理し登山道を補修しました。特に上部は崩れて道型が不明になっているところがあり、午前中いっぱいをかけての作業となりました。

6月1日に予定していた一般参加のトレッキングイベントは、前日の大雨で沢の水があふれたため7月27日(土)に延期しました。当日は市内外



から9名の皆さんの参加があり、下小寺尾から霊泉寺温泉まで歩きました。

人権講演会開催される

6月25日、市教育委員会が主催する人権講演会が武石地域総合センターホールで開催されました。アイドルグループTOKIOのメンバーだった山口達也



氏が講演し、予定していた人員を大幅に上回る280人が聴講しました。氏は、芸能活動の中で仕事への

不安で毎日深酒をするようになり、交通事故を起こすまで自分がアルコール依存症だとは思わなかったことなどの経過から

- ・アルコール依存症の人は一見普通に生活しているが一口飲むと徹底的に飲んでしまう。
- ・飲酒する人は誰もが依存症になる可能性があり、一度なると一生治ることはない。
- ・依存症は脳の病気(一種の薬物中毒)であり、自分のように事故を起こしたり、他人を巻き込むこともあり得る。
- ・薬物依存、パチンコ・ギャンブル依存なども同様な症状になり、お金、地位、家族などすべてを失うことになる。

などと体験をもとにお話しされ、参加した皆さんは熱心に聴講していました。

古民家利用を視察 産業経済部会

つくる会産業経済部会は、7月7日(日)、空き家利活用の参考にするため、真田地域での活動を視察しました。

真田傍陽にある「さんかくのいえ」は、女性3人が2019年に地区の古民家を借りて改装し、地域で「ゆたかな暮らしが仲介できる」施設として活用しています。

飲食店営業の許可を取っており、将来飲食やカフェ、菓子の店などを開きたい人のお試しの場や、イベントや日用品・古物の販売の場として提供し、地域の交流・仲介拠点となっています。幹線道路から外れた一見普通の家ですが既に5年経過し昨年は会社組織にしたとのことでした。

次に戸沢地区で、利活用の策が動きだした古民家の所有者の方からお話をうかがいました。昔

養蚕をしていて母屋の建坪だけで108坪もあり、解体するには700万円以上かかるとのことでした。そのため市の空き家バンクに相談し活用法を公募したところ、いくつかあった買取・借用希望の中から現在最終的な活用案の詰めを行っているとのことでした。

視察の後、真田公民館で長野大学松下ゼミの学生も加わって武石の活性化についてワークショップ形式で研究会を持ちました。



さんかくのいえの視察

第26回 たけし歴史さんぽ道

小沢根の聖観音像

郷土史家 見玉卓文

元禄4年(1691)に書かれた『寺社堂御帳』に、「小沢根と申所 観音堂 別当大輪寺 なしかを□申候」[田中と申所 観音堂 別当なし]とあります。

名所小沢根は、木宮明神が並んで書かれているので城山の山麓、田中は「六六」と「いづみさか」の近くのように、現在の小沢根地籍に観音堂が2つありました。名所小沢根の観音堂は上田の大輪寺が管理し、田中のものは百姓持ちのようですから、立派な観音像が安置されていたとすれば前者が考えられます。

宝永3年(1706)2月付けの『寺社堂御帳』は、小沢根観音堂を別当信廣寺と記し、「元禄十五年(1702)九月九日、使僧大林(輪)寺より参、堂観音かまいなき田、九左衛門方(武石村名主)へ申付け、殊に信廣寺へも申付け候、則ち、工藤仁兵衛様、須見加右衛門様(上田藩役人)より御状信廣寺へ遣わし申し候」と添え書きしています。

同年5月付けの『武石村差出帳』には、寺として信廣寺・妙見寺・正念寺の次に観音堂が揚げられ、善能庵が所持して屋敷分の年貢米1石5斗を納めているとあります。



観音堂の裏には、観音堂を守ってきた坊さんのお墓である無縫塔が並んでいます。東の端の塔には、「当寺開山前能雲貞和尚祥印□

坊 寛文九年(1669)己八月□日」と刻まれていて、雲貞和尚がここに観音堂を中心とする寺を開いたことが分かります。

元禄の『御社堂御帳』の小沢根観音堂はこれを指していると考えられます。寺は初め上田城下の大輪寺持ちでのち信廣寺持ちとなり、名は善能庵でしたが、村人は観音信仰から庵も含めて観音堂と呼んだと思われます。

100年以上たった文政13年(1830)の『小沢根村社堂取調帳』も、「善能寺 観音堂 信廣寺持」と「小沢根 観音堂 信廣寺持善能庵」と二つの観音堂を記しています。文政年間に書かれた武石

村絵図には、現在の観音堂の場所に善能庵が、中の橋から坂を登り切った左側に「観音(堂)」が記されています。

現在の観音堂は、2間に2間半の主屋背後に半間に2尺5寸の造り出しを施す寄棟造りで、棟に越屋根をあげ、越屋根の妻には三階菱の寺紋が付き、同紋の信廣寺との関係を示しています。堂の正面と西側には約2尺の縁が回っていますが、東側にはありません。縁がないことや柱のほぞの痕跡などから、もともとは東側の庫裏様の建物と繋がっていたのかもしれない。



無縫塔には享保4年(1719)記銘の信廣寺第14世随歎大和尚や、続く第15世峰元大和尚を供養したものがあり、善能庵は大和尚の隠居寺と考えられる反面、沙弥の戒名が記されたものもあるので、大和尚のもとで修行した若い僧もいたようです。

善能庵は観音像とのお堂を中心とする寺として建てられたと考えられ、「前能雲貞和尚」の「前能」は「善能」に通じることから、観音像は古くは善能寺地籍の寺に安置されていたのではないのでしょうか。

信廣寺の寺伝は、「初めは臨濟宗の洞昌山心光寺と名のつて半台地籍にあったが、衰亡したので小沢根の善能寺に同居し、室町末期に武石を領有した大井氏の中興により曹洞宗の武石山信廣寺となり、寛永年間(1624～43)に今の地に再興された」と伝えています。

観音菩薩像は、半台にあった心光寺時代から引き継がれたものかも知れませんが、善能寺のものかも知れません。あるいは室町時代頃にどこから移されてきたものかも知れません。

心光寺が同居させてもらった善能寺は、「善能」の名を残して消えてしまいましたが、文政期の善能寺地籍の観音堂は、元禄期の田中地籍の観音堂が、善能寺所縁の地に移されたものかも知れません。



武石の 企業訪問

武石で働く
事業所の紹介



株式会社 ミヤシタ
社長 宮下 孝夫さん



県道62号美ヶ原公園沖線をうつくしの湯入口から1.3キロ程上ると、右側の山裾に「株式会社ミヤシタ」の大きな工場が見えてきます。

1974年(昭和49)、宮下製作所武石工場として発足、1977年(昭和52)に独立して「株式会社ミヤシタ」を設立、下武石敷合の工場では農業用機械の製造を開始しました。2003年(平成15)5月、上武石に新工場が完成し、現在地に移転しています。

約4,500坪の敷地内に約4,800㎡の工場棟(一部事務室)が建ち、約70名の社員の皆さんが働いています。その内、武石地域の方は18名いるそうです。



県道から(株)ミヤシタの工場を見る

設立当初、ミヤシタで製造した最初の製品は、管理機の後ろに取り付けて土を耕すスキ(松山社向け)だったそうですが、現在はトラクターに取り付けて使用する(“作業機”と呼ばれる物)代かき用のハロー、草刈り用モア、あぜ塗り機などを主に製造しています。

製品は10品種以上大小様々なタイプを合わせて約40機種あり、年間約9,500台(800台/月)の生産を行っています。最近は機械の大型化が進み、大型機種の比率が大きくなっているそうです。

現在ミヤシタで製造している製品の全てが「ニプロブランド」の松山社向けとのことです。赤い機体に白い文字で「ニプロ(Niplo)」の表示がある農業用機械は、我々にとっても身近な存在で、親近感があ

ります。

ミヤシタの強みは、農業用機械の製造を材料調達から加工・溶接・塗装・組立まで一貫して行っている事です。また、最新設備の導入や多品種小ロットに対応した生産システムの構築などを行っています。

特に大型機材にも適応できる社内の塗装設備は一貫生産を可能とする重要な要素で、県内では有数の規模とのことです。



草刈り用モアの製造(スライドモア)

2020年(令和2)から工場の増設工事を行っていましたが、昨年3月に工事が完了、本家関連会社の宮下製作所が増設工場に移転しました。宮下製作所では上田市長瀬の工場ではミヤシタの機械加工部門を担っていましたが、同じ敷地内の製造ラインに会社ごと組み込む事で工場間の管理や運搬の手間を削減し、より効率的な生産を目指しているとのことです。

宮下社長が日頃大切にしている事は、「常に改善をして変化を求めていく姿勢」としていて、社員にも同じ投げかけをしているそうです。「大きな変化は難しいですが、少しずつ変化を積み重ねることを心がけています」と話していました。

ミヤシタでは社員募集を常時行っています。詳細はホームページをご覧ください。

株式会社 ミヤシタ

住所：上田市上武石955

電話：0268-85-2323(代)

ホームページ：https://k-miyashita.co.jp